

和歌集・かぶけやかぶけ (踊りを詠む)

多谷 昇太

我(わ)はをとこ汝(な)はをうななりさば切らむタ
ンゴに見栄を、かぶけやかぶけ

男にらみ女にらまへ舞ふこころ性をきはむがタンゴ
の流儀

カルメンよしるしある身ぞ君がむた舞ひさせなむや
なほ狂ひてんや

「オレオーレ」カントが誘ひ柏手(て)が誘ふなめつ
くすがにカルメンと舞ふ

雌豹かカルメン我に牙を剥く「どう、色男、ものにで
きる？」とぞ

※以下八首、根来滯子さんのエッセーを詠む

我(わ)を呼ばふモジリアニの血野生の血おさへかね
てはロマたちと舞ふ

狂ほしさを舞ひに託すは是非もなしさりとてサロメ、
火を恋ふ氷

命の火おさへかねては舞ふぞかし夫(つま)は踊りよ
我をいざなへ

舞はでよも明日も生くるはなかるまじ♪♪♪どうかわ
たしと踊ってください♪♪

身は老ふも心は老ひずさはいかに見果てぬ心にラ・ク
ンパラシータ

をみなゆるバラなど見ては香に溺れ迷ひもぞするバ
ラは刺すがね

人見れば恥じ入りてなむされど撒く我(わ)をば川面
に薔薇の葬送

※橘：和歌の世界では「昔をしのぶ」の意あり

いざたまへむなしからざる人の輪へあがる火花に橘
かほる

※以下、世界各国の踊りを詠む

くすしかる千手観音おろがまむ舞踊と云はぬ降りし

神々

羽衣を風になびかせ飛天すは舞妓であらぬあまつを
とめら

※倭麗姫(トウ・リャンア)：中国最美の(?)舞姫
中原に麗人(ひと)はしるけくきはまれり貴妃なる倭
麗姫まつぶさに見ゆ

いざ舞はむ唐人にてはなに恥じる慶兆見れば男とて
舞ふ

カチューシャの軍服(ふく)着て舞ふはなんとしよう
誰かあらがふ最強兵士

誰も知るロシア美人の凄しさをこころえつつは舞ふ
舞ふ女性兵士(へいし)

手をのべて肢体あやしくせまらすはペルシヤの舞姫
（ひめ）なりブルカはなくに

背徳の姿態なればやそそらすかブツダは遠くインド
の舞妓

ヒンドウの神々いたく寛容か男女のむつみ示して舞
ふよ

名取り娘（こ）は名のみのもか猫じやらしなよけき
腰に招き猫す

嬉しくばカチャーシイにてうちなんちゆう同胞（はら
から）親に再会（あ）へれば踊れ



「ポーズを決める。かぶくー！」